

船舶事故等調査報告書

平成27年8月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015横第35号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成27年3月13日 20時44分ごろ
発生場所	静岡県浜松市南方沖 舞阪灯台から真方位113° 1,800m付近 (概位 北緯34° 40.33′ 東経137° 37.89′)
事故等調査の経過	平成27年3月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	ロールオン・ロールオフ貨物船 第二はる丸、7,756トン 140317、春山海運株式会社（船舶所有者）、東洋商船株式会社（船舶借入人）
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海） 航海士A、一級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船底外板に擦過傷
事故等の経過	本船は、船長、航海士A及び甲板員Aほか9人が乗り組み、航海士A及び甲板員Aが船橋当直につき、船首約5.96m、船尾約7.00mの喫水により、約20ノットの対地速力として千葉港へ向け、舞阪灯台南方沖を北東進していた。 本船は、当直中の航海士Aが、操舵装置を手動に切り替え、甲板員Aに指示して左転を繰り返していたところ、平成27年3月13日20時44分ごろ舞阪灯台東南東方の浅所に乗り揚げた。 本船は、14日10時22分ごろ手配したタグボートの支援により離礁した後、自力航行して御前崎港に着き、船底の損傷状況を調査した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約3.2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
その他の事項	本船は、レーダー2台及びGPSプロッターを作動させていた。 甲板員Aは、航海士Aの指示により手動操舵に当たっていたとき、VHF無線電話で何回も本船が呼び出されているのを聞き、その後、船舶電話が鳴り、航海士Aが入港作業中で忙しい旨を伝えて船舶電話を切ったのを見た。 船長は、本事故時、船舶電話が鳴ったのを聞いて、何の電話か気になり、昇橋した際、航海士Aに尋ねたところ、航海士Aから、現在、愛媛県三島川之江港に入港中である旨を聞いた。

	<p>本船は、本事故時、海図台には海図W165（三島川之江港）及び海図W1105（^{ひうちなだ}燧灘東部）が置かれていた。</p> <p>甲板長は、本事故時、当直に入っていたが、船内見回りに出ていて不在であった。</p> <p>船長は、本事故時、乗り揚げた衝撃を感じなかった。</p> <p>本船は、本事故後、船長からの連絡を受けて昇橋した機関長が、主機を停止した。</p> <p>海図W70（御前崎至伊勢湾）によれば、本事故発生場所の水深は約5mで底質は細かい砂である。</p> <p>航海士Aは、約20～21年の乗船経験があったが、平成27年1月末ごろに本船に乗船するまで、約13年間陸上勤務をしていた。</p> <p>甲板員Aは、約10か月の乗船経験があり、本船には、平成27年3月1日から乗船していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、舞阪灯台南方沖を北東進中、航海士Aが、左転を繰り返したことから、舞阪灯台東南東方沖の浅所域に向けて航行し、浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>航海士Aが左転を繰り返したのは、本船が三島川之江港に入港中であると思込んだ可能性があると考えられるが、航海士Aから情報が得られなかったため、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が舞阪灯台南方沖を北東進中、航海士Aが、左転を繰り返したため、舞阪灯台東南東方沖の浅所域に向けて航行し、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>